

# 「中高年齢女性シングルの貧困」

Smile シニアシングلز

香田 美代子（坂戸市） 鈴木 多美江（上尾市）  
長谷部千恵美（東松山市） 安田 和代（所沢市）

## 1. 調査研究の背景

女性の貧困問題は、単身女性世帯や母子世帯では以前から指摘されてきたが、配偶者による扶養がある場合にはみえにくい問題であった。

現行の社会保障制度は、主たる男性稼ぎ手とその妻子で構成された「標準世帯」をモデルに構築されているため、「標準世帯」にはまらない女性たちを困窮させる要因になっている。また、未婚・離婚の増加で、自ら生計の担い手である、女性の世帯主が増えている。しかし、男女の賃金格差は解消されず、女性の非正規雇用は増加している。そのため、不安定な経済基盤からくる「女性の貧困」が課題となってきた。

勤労世代（20～64歳）と高齢者（65歳以上）の相対的貧困率を比較してみると、勤労世代の単身世帯、シングルマザーでは貧困率が減少している。一方、高齢者の単身世帯では貧困率が上昇している（「日本の相対的貧困率の動態：2012年から2015年」2018）。母子世帯の貧困に対しては、自治体の施策、支援が行われているが、中高年齢シングル女性については行われていない。社会の高齢化とともに、益々増えていく中高年齢シングル女性の貧困の課題化と早急な解決に向けた取り組みが必要である。

そこで、今回の調査・研究では、中高年齢シングル女性の現状の可視化と、ニーズに対応した支援策、施策に繋げるためのアプローチを考察することとする。

## 2. 研究・調査

中高年齢シングル女性の生活状況を明らかにし、現状と問題点を探ることを目的にアンケート調査を実施した。

質問項目は、「わくわくシニアシングلز」、「横浜市男女共同参画推進協会」の先行アンケート調査を参考に設定した。対象年齢は、概ね45歳以上とした。また、「仕事に関する悩みや不安」「今後必要なサポート」「参加してみたい場」については、具体的な声を拾うため自由記述欄を設けた。配布は、メンバーの身近な人への手渡しやメールやネット等での配布・告知で行った。

## 3. 調査結果（回答者数48人）

年齢は？

40代=18.8% 50代=41.7% 60代=31.3%  
40～50代が60.5%で、60代以降は39.7%である。

シングルである事情は？

離婚=38.3% 独身=34% 死別=23.4%

現在の住まいは？

持ち家=45.8% 賃貸=29.2% 親族の持ち家=22.9%  
死別、離別の方の持ち家率が高くなっている。

就労先の雇用形態を教えてください

正規雇用=30% 非正規雇用のパート・アルバイト・  
契約社員=55% 自営業・フリーランスを加えると62.5%

非正規雇用についている理由は何ですか（複数回答）

正社員として働ける会社がない=42.9%  
専門的な資格・技能が活かせる=38.1%  
家の事情を優先するため=38.1%

仕事に関する悩みや不安はなんですか（複数回答）

収入が少ない=42.1% 雇用継続（解雇・雇止め）=28.9%  
人間関係=21.1% 仕事過重=18.4%。

仕事で、特に悩んだり、不安に感じることは？（自由記述）  
（16人回答）（抜粋）

※ 何年働いても、時給が最低賃金である。その割に、業務は増え続け、人出不足が解消されない（40代）  
※ この先も収入の不安で、貯金ができるか分からない。  
一人暮らししたいが、まったく目処がたたない（40代）

いつまで働かないといけないと思いますか

「働ける限りはいつまでも」が73.2%

昨年1年間の就労収入（税込み）を教えてください

100万円～200万円未満、200万円～300万円未満  
=それぞれ22.5% 500万円以上=17.5%  
正規、非正規の雇用形態の違いが収入の差に顕著。

年金保険料の未納期間はありますか

未納期間がある=42.6%

年金を満額受け取れない人が半数近くいる。

貯蓄や年金などだけで暮らすとしたら、あとどれくらい生活できますか

10年以上=30.4% 1年以上5年未満=28.3%  
1年未満=17.4% 二極化していることがわかる。

日常生活全般で、どのような不安を感じていますか

健康や病気=59.1% 生活のための収入=54.5%  
親の介護=45.5% 自分自身の介護のこと=34.1%  
健康な時にはなんとか暮らしていけるが、病気になったら、親の面倒も見なくてはならなくなったらどうなるのだろうというような不安を抱えている。いずれにしても生活費の確保に不安を持っていることがわかる。

生活がたちゆかなくなった場合、どのように対処しますか  
不動産を売却して生活費にあてる=33.3%

生活保護をうける=31.3% 今は考えられない=29.2%  
子どもや親族に支援を求める=20.8%  
持ち家の人は不動産売却できるが、収入の少ない人や処分できる財産のない人は生活保護を受給せざるを得ないと考えている。

今、望んでいることやめざしたいことはなんですか。

今の職場で働き続けたい=41.3% 収入をふやしたい=39.1% ゆっくりしたペースで働きたい=39.1%  
収入源と収入増を望みつつ、仕事過重な現状がうかがえる。

利用してみたいサポートや参加してみたい場はありますか  
(複数回答)

心身がリフレッシュできる場=51.4% 同じ立場の人たちとの交流の場=32.4% 話を聞いてもらえる 29.7%  
話し相手が欲しいなど孤立化している状況が読み取れる。

社会の中でこんなサポートがあったらうれしい、というよう  
なご意見やご要望を。自由記述 (24名回答) (抜粋)

#### ☆健康

- ・健康維持のための体操、筋力維持
- ・認知症予防の運動
- ・健康上の理由から運転免許を返上したが、車を運転できないと非常に不便⇒買い物や通院の際の高齢者の移動手段を支援する仕組みを作って欲しい

#### ☆働き方、雇用、制度

- ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金
- ・性別年齢に関係なく、対象となる仕事能力がある人を雇用する等、働き方が変わっていくこと
- ・資格を取るための支援やサポート
- ・全ての人が企業で働く、または老後は夫婦で年金生活という前提で年金制度が設計されている
- ・長年フリーランスで働き、シングルでマザー。国民年金の未払い約20年。このままでは年金が低額で生活がなりたたず。ベーシックインカム仕組みを作って欲しい。

#### ☆ 親、子ども、家族のこと

- ・親の介護のことが心配。しかし、どのようなサービスが利用可能なのか調べるゆとりもない
- ・知的障がいがある子どもが、自分の死後あるいは判断力がなくなった時、しっかりと生活できるようなサポート。

#### ☆住まい

- ・高齢者の一人暮らしでも貸してくれる低家賃でバリアフリーの住宅。
- ・共同の暮らしができるような場を作ることや、維持していくことへの支援制度がほしい。

#### ☆孤独、不安

- ・中高年齢シングル女性に向けたイベントや居心地のいい場があるのか、情報が発信されているのかも分からない
- ・漠然とした不安感を持っている程度では、口にする場も頼るところもない。
- ・孤独に陥ってしまうような気になってしまう。
- ・兄弟や友人たちは結婚していて、私のことを理解しても

られない。

#### 4.まとめ

これまで女性の貧困問題は、行政の統計調査も男女別の統計がほとんど無いなど、世帯の中に隠されてきた。

1985年に男女雇用機会均等法が制定され、女性の社会進出も進んだように見える一方で、同年制定の「労働者派遣法」によりパートや派遣などの女性の非正規雇用が増大した。また、「育児休業法」、「育児・介護休業法」の施行により、育児や介護を行う労働者の職業生活と家庭生活の両立を支援する動きがあるものの、育児・介護と仕事の両立は難しく、正規職をやめる女性も多い。しかし、再就職の際に、正規職に就くのは、困難な状況にある。

こうした状況の中で、自ら生計の担い手であるシングル女性の女性は、生活のためには、非正規雇用で低所得だとわかっていても働かなくてはならないのが現実だ。正規雇用と非正規雇用では、現在の収入にも格差があり、退職後の年金受給時にも格差が生じてくる。このようなことから低所得層が抱えている問題は、自己責任と切り捨てて良い問題ではなく、社会に翻弄されている面が大きく、社会全体で取り組んでいかなくてはいけない問題だ。

アンケート調査を行って、中高年齢シングル女性といっても、シングルマザー・未婚・非婚・離婚・死別などシングルである理由は様々であることがわかった。また、非正規雇用労働者が多く、生活のための収入、そしてそれを妨げることになる病気や親の介護といったものに不安を覚えていることがみえてきた。

正規雇用労働者と非正規雇用労働者の収入の格差は、現役時代から年金受給後も続き、高齢になるほど格差が大きくなっていく。現制度での非正規雇用のシングル女性への年金支給額では、生活することさえ困難であり、65歳以上の年金受給者でも働ける限り働き続けなくてはならない。しかし高齢になればなるほど働ける職場を探すことや、住居探しも非常に困難を強いられることとなる。

生活保護の被保護者調査(厚生労働省、平成30年11月分概数)では、高齢者世帯882,258人の内、単身世帯805,387人となっている。男女別にはなっていないが、女性の方が長寿であることから、女性の受給者が多いことが推測される。このようなことから、中高年齢シングル女性の貧困は、まだまだ奥が深く、多くの問題を抱えている。しかし、各自治体での調査も行われず、支援も対策もほとんど行われていない。今回の調査は、自分たちの身近な人への調査ではあったが、直視すべき現実が見えてきた。今後も困難を抱えた女性が増加していくことが予測されるので、早急に、各自治体で、ジェンダー統計に基づいた現状把握とシングル女性に焦点をあてた調査を行うことを提言したい。

Smile シニアシングلزは、今後も聞き取り調査を継続し、ますます増えていくと予想される女性の貧困をテーマに、当事者のニーズを掬う地域活動に繋げていきたい。